

屋島の地質

屋島（「屋根のような島」）はメサ、つまり全体が急斜面の崖に囲まれた頂上が平らな山です。その異様な形は、およそ 1400 万年前にこの地で起こった火山活動によるものです。それ以前、現在の屋島は高い山々に覆われた谷で、それら山々の中には火山がありました。それら火山のひとつが噴火し、溶岩が谷に流れ込んで、谷は溶岩で覆われました。この溶岩が固まり、サヌカイト（讃岐岩、香川県の昔の名称「讃岐国」にちなんで命名）という極めて硬い独特な黒い岩になりました。1000 万年以上の歳月をかけて、サヌカイトで満たされた谷の周りの花崗岩の山々は完全に侵食されました。地形の最も低い部分が最終的には最も高い地点になりました。サヌカイトがもともと花崗岩質であった谷を風雨から守り、屋島を現在私たちが目にする孤高のメサへと変えたのです。溶岩の流れによって形成された滑らかなサヌカイト類の溶岩が流れてできた板状節理（水平方向の割れ目）は、北嶺を周回する遊歩道に沿って、さらには山の麓から屋島寺に通じる小道近くのいくつかの場所で観察できます。

およそ 7000 年前、現在私たちが知る瀬戸内海が最も新しい氷河期後の劇的な海面上昇によって形成されたとき、屋島は海水に囲まれ、ひとつの島となりました。屋島は、浅瀬が続くこの地域の塩の生産を拡大する目的で埋め立て工事が行われた 1600 年代まで、四国からは離れたままでした。